



着々と進む修理事業！

小浜西組地区が国の重要伝統的建造物群（重伝建）保存地区に選定されてから2年が経過しました。その間に国、県、市の補助金の交付を受けて家屋を修理された方が平成21年度には飛鳥区で3軒（今嵐様、尾上様、岩本様）が既に完成済み。平成22年度分として香取区の播磨様、河野様の主屋、鹿島区の河原様の主屋、松宮様（町並み保存資料館）の土蔵が現在修理工事に入っています。

この補助金制度は伝統的建造物の主屋の場合、外回りと建物の構造体の修理は、対象経費の80%（限度額800万円）というたいへん有利な条件となっています。（土蔵、離れなどの付属屋などは別の条件となります。）

平成23年度の申請は締め切られましたが、平成24年度以降に修理等を考えておられる方は、市の文化遺産活用課（担当：野瀬）までお問い合わせください。

* * * * *

現在、修理工事中の河原様から興味深いお話をおききました。

主屋の解体を行なっている途中、すり揚げ戸（今のシャッターのようなもの）があったという跡が柱にあり、その戸が二段式になっていたこともわかりました。この形態のすり揚げ戸は今とってはどこにもない、河原様だけに残る貴重な物になっていること。そしてその時使っていたすり揚げ戸が、河原様の土蔵の間仕切り戸に利用されていたことがわかりました。そして大戸のくぐり戸は主屋の屋根裏に残っていて、完成の暁には表通りに面した戸は、すり揚げ戸を再利用し、大戸の復元もする予定です。



修理が終わった建物
（上から今嵐邸・尾上邸・岩本邸）

防災ワークショップに参加して

先日、防災ワークショップに参加しました。ワークショップ？何の店なの？などとお思いの方、決して怪しい販売業者ではありませんのでひとまずご安心を。この広報を通じて、この防災ワークショップのことを簡単にお伝えさせていただきますね。

ワークショップでは1テーブル7～8人程のグループに別れ、講師の先生の説明に従い、テーブル上に広げた私たちが住むまちなかの地図を見ながら行われ

れました。避難場所、高齢者の住宅、水源、など重要なポイントをマークし、どこへ避難するのか、安全な避難経路はどこか、高齢者の方を救助にいけるのはどこの家の人か、などなど地域の実情を検証しました。地図を囲んでのワークショップは、さながら映画やドラマの重要ミッションの作戦会議のようで、なんとなく臨場感もあり、なかなかワクワクする体験でした。私自身この作戦会議でいつの間にか身体が前のめりになっていました。

このワークショップでは町の長所や短所についても検証されました。長所としては、ご近所同士コミュニケーションがとれていて、ある程度町のなかの様子を把握できているところ。祭りや地域の行事ごとなどを通じてこれからも大切にしていきたいところだと改めて思いました。短所としては災害に対する危機管理意識が希薄なところ。私自身がそうなので反省です。



班毎の発表

災害は忘れた頃にやってくるとも言います。火事や地震などの災害が起こったときは、老いも若きも子どもも男も女も関係なくみんな避難しないといけません。火事ならば少しでも早めに火を消さないといけません。区の役員さんや消防が誰かとか救助はまだか？などと人を当てにしている場合ではなく、わたし自身がそこで対応できないと、逃げないといけないんだという事を改めて感じました。わかって

いるようでわかっていない避難方法や初期消火の手順を知るには訓練が必要です。バケツリレーや初期消火や避難訓練の体験をしたいと思います。

自分の目の前に地図を置きながらのワークショップは現状や課題が具体的にいろいろ見えてきて、実に興味深いものでした。次の機会には、ぜひ多くのおみなさまにも体験していただきたいです。きっと身体が前のめりになること間違いなしです。

この体験を通じ、いま自分に何ができるのかを考えるいいきっかけづくりができたように感じています。

最後になりましたが、自分の住むまちを自分たちで守り・育てていけるといいなと思いました。(浅間区・女性)



大窪教授の説明

「小浜ウエスト物語2010 春」の報告

小浜ウエスト物語2010実行委員会 ガallery一部会長 佐野 達也

5月22日（土）に開幕しました「小浜ウエスト物語2010 春」は、大盛況の中6月20日（日）に無事終了することができました。イベントの実施にあたり、地区民の皆さまをはじめ、実行委員の皆さまには、多大なるご支援ご協力を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本イベントは、平成20年に重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定された小浜西組について、多くの方に知っていただくことを目的として開催いたしました。

以下、今回のイベントの内容を紹介します。

まず、鹿島区の丹波屋土蔵「蔵夢」にて古写真や武田氏館跡の展示をはじめ、写団わかさの作品、アメリカから来浜された芸術家のグレゴリー氏、俵越仙（タレントの越前屋俵太）氏の作品など、盛りだくさんの内容の展示を行いました。

次に、白鳥区の白鳥会館では「化粧地蔵・我が家のベストショット展」を開催しました。西組内の化粧地蔵の写真と解説をパネル展示しました。会場では語り部さんの案内もありました。我が家のベストショットでは実行委員自慢の写真を持ち寄り、それを展示しました。なお、会場の白鳥会館自体が登録文化財という見応えのある建物なので、来場者は興味深くご覧になっていました。

また、飛鳥区の蓬嶋楼さんでは初の一般公開ということもあり、1,000人を超える来場者で賑わいました。館内には貴重な調度品がたくさんあり、見る人の目を楽しませてくれました。「今までに入る機会がなかったので、とてもよかった」という感想を多く聞くことができました。

同じく飛鳥区の町並み案内所では、昔の町並みの写真や現在の街路の写真などを展示し、西組のみどころを紹介。さらに、鹿島区の町並み保存資料館では、放生祭を写真と映像で紹介しました。

そして、6月5日（土）には、浅間区の常高寺で上方落語寄席を開きました。ご出演の林家染丸さんは、NHKの連続テレビドラマ「ちりとてちん」で落語監修や指導を担当され、また昨年は芸術選奨文部科学大臣賞を受賞された方です。染丸さんの軽妙な話芸に、会場は笑いに包まれました。併せて期間中、常高寺では「お初&京極高次CGキャラクター展」も開催いたしました。

このように多彩なイベントを実施し、30日間の期間中2,500人も多くの来場者をお迎えすることができました。このイベントを通し、小浜西組に対する理解や関心が深まったのではないかと思います。また、我々の掲げるマスタープラン“町のにぎわい”と“文化の継承”の一役を担えたのではないかとともに思います。

小浜西組は、重伝建地区という国の法律で縛られているとの見方もできますが、他の地域に誇れるとても美しい町です。何もせず放^さっておけば、やがて寂れてしまいます。後世

の人々にも、この美しい町並みの中で暮らしてもらいたいと思っています。そのために今出来る事を精一杯取り組んでいきたいと考えております。

さて、10月2日（土）からは、秋の部のイベントが始まります。コンサートなど春にはなかったイベントも企画中ですので、皆さま楽しみにしてください。

今後とも、皆さまのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

小浜西組町並み協議会からの

●活動報告とお知らせ●

■平成22年7月21日（水）の猛暑日に、富山県中新川郡上市町の伊東尚志町長はじめ区長協議会の方々38名が小浜西組地区を視察研修にこられました。当協議会からは澤口会長と役員2名が対応に当たり、常高寺を出発して三丁町付近を散策しました。散策中、60歳代の男性が「どこの家も電気のメーターが玄関口に取り付けてありますね。上市町はそんな家はどこもないです。」と言われたのが印象的でした。小浜の町家は隣家とくっ付いて建っているので仕方がないことなのだという。そして小浜の町家の特徴である袖壁は火事の延焼を防ぐ為のものだ等と説明をしました。暑い日でしたので散策は早めに切り上げ、常高寺に帰って、澤口会長が時間の許す限り、お寺の説明をして、その後、上市町区長協議会の方々は関西方面へ出発されました。



■小浜ウエスト物語2010春は約2,500人のお客様を迎えることができました。特に蓬嶋楼の人气が高く1,000人以上のお客様がありました。秋には小浜ウエスト物語2010秋【10月2日（土）～10月31日（日）】が開催されます。写真コンクールや門前縁日横丁など行いますので小浜西組の方々の積極的な参加をよろしくお願いいたします。

■町並み保存資料館では8月30日（月）まで「番傘と下駄展」を開催しています。珍しい秋田工芸品や若狭塗りの下駄、昔懐かしい下駄の数々が集まりました。町並み保存資料館まで足を運んでください。

